

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571300148		
法人名	社会福祉法人同朋福祉会		
事業所名	グループホームひかりの園		
所在地	山口県美祢市於福町下3267-1		
自己評価作成日	平成28年12月30日	評価結果市町受理日	平成29年5月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年1月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内にある畑を利用し利用者と共に季節に応じた野菜作り、水やり除草作業、収穫などを行い穫れた野菜を使い利用者と共に下ごしらえを行い調理し食している。また季節にあった行事などを取り入れ(みかん狩り・苺狩り・花見)ゆっくと季節を感じていただいている。家族との交流も大切にし交流ができるよう年間行事に取り入れ(敬老会・ひな祭り)ご家族にも出席してもらっている。日頃より作成した作品は法人事業のフェスタなどに出席しフェスタにも参加、他事業所の作品などを見学し色々な創作意欲を引き出せるよう支援している。これからも利用者の思いに寄り添い笑顔と笑いのある温かいホームを目指していきたいと思う。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

朝礼時のミーティングで、曜日を決めて理念を確認してケアを振り返ったり、緊急時の通報マニュアルを読み合わせるなど、重要なことを日頃から職員が意識するように取り組んでおられます。ケースダイアリーの書式を改善され、本人や家族の意向とケアの方針を掲げて、その日の様子や言葉を職員が意識的に記録され、毎日のサービス内容をチェックしておられるなど、日々の関わりのなかで利用者の思いを把握するように努められ、「私の気持ちシート」に加筆されて、申し送り簿の活用と共に、職員間で共有するように取り組んでおられます。事業所は、中学校の運動会の競技への参加や法人事業所と合同で開催しているミニ運動会に来訪している小学生との交流、地元の郵便局での作品展への出品、家族も参加している敬老者祝賀会やひな祭りなどと合わせて、紅葉狩り、みかん狩り、イチゴ狩り、ホテルでの芝居見物などの月1回の外出など、利用者が地域の人や家族と関わりながら、ともに楽しめるように支援しておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中で穏やかな暮らしができるよう「優しい心ふれあう心温かい心を持ち、明るく楽しくのんびりと、その人らしさを大切にし、地域と関わりながら馴染みの暮らしが継続できるよう支援する」を理念とし朝礼時等で唱和し理念の共有を行い、理念に基づいたケアを行っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、朝礼時に唱和して、職員間で共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人事業や地域事業、中学校の行事または散歩等で地域の方と関わりを持っている。日常的に食材配達の方などが訪ねてこられ日常的に交流がある。	事業所の近況を記した法人便りを各事業所が輪番で800部を作成し、関係機関や地域のJA、小、中学校、郵便局、家族などに配付し、法人の事業所活動の理解を得るよう啓発に努めている。法人の行事(夏祭りやフェスタ)に地域の方の参加があり、利用者と交流している。中学校の運動会に出かけ、利用者は競技に参加している。郵便局の協力を得て、利用者や職員の作品展を開催し、見学に出かけている。法人他事業所と合同で開催しているミニ運動会に小学生(4年生)の参加を得て、交流している。ボランティア(フラダンス、琴、尺八、三味線等)の来訪がある他、食材配達の人や、日頃の散歩時に地域の人と挨拶を交わしたり、花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は施設内勉強会などを行い知識を高め地域の方からの相談に自分の知識範囲で応えるなど地域への貢献に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価を実施する意義を理解し、評価は日々のケアの振り返りに活用している。	管理者が、職員会議で評価の意義について説明し、自己評価をするための書類に職員全員が記入し、管理者がまとめている。まとめたものを職員に回覧している。職員は評価をケアの振り返りと捉えている。前回の評価結果を受けて、利用者の思いの記録の残し方として、記入様式を改善したケースダイアリーに記録している他、スピーチロックにつながる不適切な言葉かけがないようなど、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、医師、市高齢課職員、地域包括支援センター職員、消防署職員、警察駐在、民生委員、地域の方を案内し2ヶ月に一回開催している。利用者の様子や行事、災害について協議をし出席者からアドバイスや伝達などを受けサービスの向上に活かしている。	会議は年6回開催し、利用者の状況報告や行事予定、防災などについて報告して話し合い、各メンバーから制度や専門的情報、地域情報などの提供を受けている。提供された情報を職員の研修に反映したり、利用者の外出先の参考にしてしている他、利用者の散歩時に反射板を使用しているなど、会議での意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や地域包括支援センター職員さんには入居希望者情報のやり取りや研修案内などの情報をもらっており、日常的に協力関係が築けている。	市担当者とは、運営推進会議で情報交換したり、助言をもらっている他、電話や直接出向いて相談して助言を得ているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議の他、電話で困難事例について相談をし助言を得ているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内勉強会などで学びどのような行為が身体拘束に当たるのかを全ての職員が理解しており、身体拘束は絶対にしてはならないとの認識を持ち業務に携わっている。夜間は職員配置が1名になるので防犯上施錠しているが日中は所在確認表の活用や利用者の様子を常に観察し察知し早めの声掛けなどの工夫で鍵を掛けないケアを実践している。	内部研修で身体拘束について学び、全職員が理解して、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。毎月、職員会議や朝礼時にスピーチロックのない言葉かけの実践を共有し、取り組んでいる。玄関は施錠せず、外に出たい利用者には職員と一緒につきそったり、気分転換できるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づいて勉強会をし、どのような事が虐待に当たるのか、虐待を見過ごしていないか、職員間で虐待防止について共通理解をしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護についての知識を得ていきたいと思えます。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のケアに関する取り組みや、起こりうるリスク、退居時の対応など、本人や家族の不安を伺いながら安心できるよう説明し、理解、納得が得られるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホールに苦情受け付けを設置し入居時には、苦情受け付け体制や苦情解決の流れ、苦情申し出先等の説明を行っている。家族からは来訪時に意見をいただくようにしている。また、日頃から話しやすい関係作りに努めている。	相談や苦情の受付体制を定め、契約時に家族に説明をしている。苦情受付箱を設置している。面会時や月ごとの支払いでの来訪時、家族会を兼ねた行事(敬老祝賀会、ひなまつり)参加時に家族からの意見や要望を聞いている。運営に反映させるような意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常的に職員の提案や意見を聞き、高齢者部会等で検討し改善、運営に反映させている。	管理者は、月1回の職員会議や毎日の朝礼時のミーティングなどで、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で職員の意見や提案を聞き、2ヶ月に1回の法人の高齢者部会や施設長会議で検討して運営に反映させることとしている。この1年では運営に反映させるような意見は出ていない。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、日々の労を労い各々が抱えている悩み等が軽減出来るようまた、資格取得などの向上心を持って働けるよう職場の環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、勤務経験や段階に応じて受けることができるよう配慮し、年2回の法人内研修会や報告会、施設内勉強会など職員が学ぶ機会を確保している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。復命報告を行い、資料を回覧して共有している。法人研修(学びセミナー)を年2回実施し、受講者は復命して資料を回覧している。内部研修は、年間計画を作成し、月1回、認知症について3回、風水害防災訓練、権利擁護と成年後見制度、事故防止と再発防止、緊急時対応(誤嚥、窒息、食中毒、発熱、骨折、異食、心肺蘇生、防災マニュアルの復唱)、身体拘束・虐待・プライバシー、サービス内容検討会(自己評価)などのテーマで実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会や宇部・山陽小野田ブロック協議会に加入し、同業者との交流を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時は可能な限りご本人にお会いして話を聴くようにし、ご本人の思いを理解し、良い関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯や、困っていること、ご本人に対しての思いなど時間をかけて聞き、ご家族の思いを受け止め信頼関係が築けるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合は、他事業所のサービスに繋げるような対応をしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の作業、畑仕事や梅干し作りなど、利用者の今までの経験、生活の知恵等を上手く引き出すことで、利用者が自信を持てるように、また主役になれるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで本人の様子を伝え、共に本人を支えているとの思いを持っていただけるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際には本人に馴染みのある場所を通ったり知人などが訪ねてこられた際にはゆっくりと過ごしていただけるよう暖かい雰囲気作りに努めている。	家族の面会、親戚の人や知人、近所の人などの来訪を支援している。馴染みの場所や自宅周辺のドライブの他、家族の協力を得て、墓参りや正月の外泊、買い物、紅葉見物を支援している。外出時のドライブで市内の思いでの地巡りを取り入れ、ゆっくり過ごせる工夫をして、馴染みの人や場所との交流が途切れないよう努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の心身の状態や相性等を良く観察し、上手くお互いに関われるように職員が間に入り工夫している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状のやり取りや、入院又は他施設へ入居された場合は、様子を見に行き、声をかけるようにしている。他施設へ移動された利用者のご家族から近況を知らせる電話がかかることもある。退居される際は、私たちでお役に立てることがあればいつでも声をかけて下さいと伝えるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で希望や意向の把握に努め、利用者の思いを尊重できるだけ思いに添えるよう対応している。利用者が自分の思いを伝えやすい雰囲気作りに努めている。	入居時のアセスメントシートを活用している他、ケースダイアリーの書式を改善し、日々の関わりの中での本人の様子や言葉を職員が意識的に記録し、申し送り簿で共有して、思いや意向の把握に努めている。カンファレンスで一人ひとりの思いを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が話されたことや、ご家族の話、知人、兄弟姉妹の話から必要な情報を得るようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの日々の状態をしっかりと観察し、できることへの参加促し等、残存能力が活かせるよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者には日常の関わりの中で思いを聞き、ご家族には面会時などに意見や意向を聞き、それぞれの意向を反映しながら職員全体で意見交換やカンファレンスを通じて計画を作成している。基本的には6ヵ月での見直しだが、状態に変化が生じた場合は随時見直ししている。	月1回のカンファレンスで本人の思いや家族の意向を検討し、医師や看護師の意見を参考にして介護計画を作成している。ケースダイアリーに本人や家族の意向とケアの方針を掲げ、毎日サービス内容の実施状況をチェックしている。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、6ヶ月に1回の見直しをしている他、利用者の状態の変化に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活全般を日々の記録に残し、気になること、変化があった事などは朝礼時のミーティングにて報告、また、伝達ノートを活用し職員間での情報の共有化を図り、介護計画作成に反映させている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況も考慮しながら、かかりつけ医への通院介助、選挙への付き添い支援等できる限り利用者のニーズに応えられるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や警察、地域の方、民生委員の方達の協力、行事参加など利用者が安心して暮らすことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療や通院方法について確認し、ご本人、ご家族が希望されるかかりつけ医とホームの関係作りに努め、情報提供も適切に行い安心して医療が受けられるように支援している。緊急時の搬送先の希望も確認している。	本人や家族の希望により、協力医療機関をかかりつけ医とし、定期受診を支援している。他科受診は家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時には「緊急時個人カード」で情報提供を行い、受診後は電話や口頭で家族に連絡し、申し送り簿で共有している。緊急時や夜間は協力医療機関と連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態に変化がある時、又は職員が気付いた事は、速やかに法人運営のクリニック医師に報告し必要な指示を、もらうようにしている。その経過は記録に残すようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して過ごせるように、利用者の情報を医療機関に提供している。職員も見舞いに行き、看護師より状態を聞くようにしている。家族とも連絡を取りながらできるだけ早い退院に向けての支援をしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学時や入居時に、重度化した場合の対応について方針(ターミナルケアはしていない等)を説明すると共に、状態に応じ、医師や看護師、家族と相談しながら、本人・家族が不安にならないよう最善を尽くし、次の支援に繋げて行くことを職員全員で共有している。状態は医師より直接ご家族に伝えてもらっている。	入居時に重度化した場合の対応について、事業所でできることを移設も含めて家族に説明をしている。状態が変わることが予測できるときは、早い段階から医師や看護師と相談し、かかりつけ医から家族に説明してもらっている。職員間でも方針を共有し本人や家族の気持ちに沿うよう取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急時に備え日々勉強や訓練を行っている。繰り返し行うことで初期対応が身につけてきていると思う。	事例が発生した場合はヒヤリハット報告書、事故報告書に記録し、全職員に回覧して、職員会議で検討し、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応について具体的に内部研修で緊急時の対応(誤嚥、窒息、食中毒、発熱、骨折、異食、心肺蘇生等)を学び、週1回曜日を決めて、朝のミーティングで事故、緊急時対応、防災マニュアルの読み合わせをして確認し、実践力を身につけるよう努めているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定を含んだ防災訓練を隣接のケアハウスと合同で実施している。避難経路の確認、消火器の取り扱い方、ビデオでの防災学習等行っている。曜日を決め朝礼時に訓練をしている。	年2回、消防署の協力を得て、隣接の法人施設と合同で昼夜間を想定した消火、通報、避難訓練を利用者も参加して実施している。訓練後は消防署のビデオを見た後で指導を受けている。朝礼時のミーティングで、緊急時の通報マニュアルの読み合わせをしている。法人全体で支援協力機関(消防分団、民生委員等)連絡網を作成しているが、連絡訓練の実施はなく、地域との協力体制が十分とはいえない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の研修会や施設内勉強会で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、対応の仕方を学習し、利用者を決して傷つけることのないように気を付けている。個人情報の取り扱いにも十分気を付けている。	法人の研修や内部研修で利用者の人格の尊重とプライバシーの確保について学び、職員は理解して誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば管理者が指導したり、職員同士で注意している。個人情報の取り扱いにも配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が理解しやすい言葉かけを心がけ、自分の思いを表出する事ができるように働きかけ、自己決定できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が過ごしやすいうように、ある程度見守りをし、必要に応じて声をかけるようにしている。本人の希望や選択で希望に添った暮らしができるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や染毛、外出時の衣服の選択などご本人が納得したお洒落ができるように支援している。また、美容の日には、爪切りや耳掃除など行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は法人の配食を利用しているが、朝食、夕食はホーム内で作っている。利用者の好みも入れ、畑で採れた野菜も使い、食事の準備、盛り付け、後かたづけを利用者と共に行っている。	月曜から土曜日の昼食は法人の配食を利用し、朝食、夕食、日曜日の三食は、職員が事業所で調理している。畑で採れた野菜(サツマイモ、スナップエンドウ、きゅうり、トマトなど)など旬の食材を活用している。利用者は、下ごしらえや配膳、盛りつけ、下膳、食器洗いやテーブル拭きなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。雛祭りや敬老祝賀会などの家族との行事食や月に1回の外出時の外食、弁当持参での戸外での食事、おやつづくり(ケーキかざり、ぜんざい、餅つき、草餅)、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立をベースに、ホームでの工夫も入れて作っている。飲み込みの悪い方はご本人の了解を得てミキサー食を提供したり、トロミ剤の使用で安全に食事摂取ができるように配慮している。食事摂取量、水便摂取量のチェックをし、適量が摂取できるようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ひとり一人の力量に応じた口腔ケアの声かけをし支援している。歯ブラシ、コップは定期的に消毒、義歯は夕食後自分で出来る人は職員が見守り自分でしてもらい、できない人は職員が洗浄し洗浄剤に浸け清潔に管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックをし、ひとり一人の排泄パターンを把握し時間を見ながらトイレの声かけをし、トイレへ誘導している。	ケースダイアリー（排泄チェック表）を活用してパターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄の自立に向け支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、乳製品の取り入れや、便通に良い食材を使ったり、身体を動かす機会を増やす等の工夫をしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人で入りたい人は一人で入ることができる、入浴剤の使用や、柚子湯、菖蒲湯など季節を感じゆっくりとリラックスできるよう工夫している。利用者の状態によって、清拭やシャワー浴、足浴の対応をしている。	入浴は、10時から12時までの間、利用者の希望や体調に応じて隔日に入浴ができるように支援している。職員との会話を楽しみながら入浴している。利用者の状態に合わせて、清拭やシャワー浴、足浴、機械浴など、個々に応じた入浴の支援をしている。入浴剤を使用したり、ゆず湯、菖蒲湯など季節のお風呂を楽しめるように工夫している。入浴したくない利用者には、職員を交代したり、声かけの工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調を観ながら、日中の活動に参加を促し生活リズムが整うよう支援している。ゆっくり安心して休んで頂けるよう話を聴いたりして精神的な安定が図れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬情報は個別にファイルし、使用目的や副作用、用法や用量をいつでもすぐに確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人のできることに着目し、生け花、貼り絵、手芸、塗り絵、法話の会、3B体操、いきいき音楽教室、歌とキーボードの演奏会など楽しみながら気分転換の支援をしている。出来上がった作品は法人の文化祭などで披露する場があり、利用者は張り合いを持って制作に取り組まれている。	節分(豆まき)、餅つき、ひな祭り、七夕まつり、そうめん流し、敬老祝賀会、ミニ運動会、芋ほり、たこ焼きパーティー、忘年お楽しみ会、法人の夏祭りやフェスタ、いきいき音楽教室、3B体操、法話のかい、抹茶の会、郵便局や法人文化祭で展示する作品づくり、新聞や雑誌を読む、テレビの視聴、俳句を読む、リズム体操、風船バレー、トランプ、パズル、ドリル、生け花、はり絵、ぬり絵、折り紙、夏野菜の植え付け、水やり、収穫、食事の下ごしらえ、準備や後片付け、洗濯物たたみなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日の散歩、気候の良い季節には公園で手作りのお弁当をいただき、季節毎の花見、みかん狩り、ドライブ、外食など、できるだけ戸外に出掛けるようにしている。その際に利用者の希望があれば取り入れるようにしている。	施設周辺の散歩や畑の花や野菜の世話、作物の収穫のため日常的に戸外に出かけている。利用者の希望を聞きながらドライブ(角島)や紅葉狩り、ホテルでの芝居見物に出かけている。法人の他事業所との合同の桜の花見、法人行事(夏祭り、フェスタ、法話の会)への参加、中学校運動会の参加、郵便局での作品展の見学など、戸外にでかけている。家族の協力を得て、思い出の地(自宅周辺)や墓参りなどの支援を行っている。手づくり弁当を持って花見(桜)に行ったり、ミカン狩りや苺狩りを楽しむなど、日常的に外出が楽しめるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時など、お店で買い物をするときは、自分で品物を選んでいただき、自分で支払いをし、買い物を楽しんでもらっている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いは必ず出せるように支援している。電話をかけたたり、手紙を書いたり、ご家族や大切な人とのやり取りが継続できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンや事務所から全体を見守る事ができるようになっている。ホールには季節の花を飾り、ひな人形、五月人形をその季節に飾り季節を感じてもらっている。利用者はキッチンからの良い香りや料理をしている音を聞きながら、ホールや廊下に置いてあるソファやベンチで自由に過ごされている。	居間兼食堂からは、周辺の家や田畑や山が見え、季節の変化を感じることができる。陽が差し込んで明るく暖かい。周りの壁には利用者の作成した季節感のある作品などを飾っている。台所からの音や匂いがして、家庭的な雰囲気を感じることができる。テーブルや椅子、ソファを配置し、利用者がいつでも思い思いに過ごせる居場所づくりをしている。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごすことができるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は気の合う人と話したり、居室のテレビで好きな番組を一人で観られたり思い思いに過ごされている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の説明でご家族に、ご本人が気に入られている家具や馴染みのある物を持ってきて下さいとお伝えするようにしている。それぞれ居室にはご家族の写真や人形、ひ孫からの手紙等が飾っており、ご本人達は居心地良く過ごされている。	小タンス、衣装ケース、椅子、棚など使い慣れた家具を持ち込み、家族の写真や折り紙作品や色紙などを飾って、利用者が安心して暮らすことができるよう、その人らしい居心地の良い空間をつくっている。各自室の入り口には、花の名前と絵が入った表札があり、わかりやすいように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手摺りや浴室、トイレ、廊下などの住環境が適しているか常に意識している。場所が分かりやすいように各居室入り口に名札や、トイレの表示など自立に向けた工夫をしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム ひかりの園

作成日: 平成 29 年 5 月 10 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議での協議内容が今ひとつである。	報告だけで終わらないように参加者の意見を引き出せるようにする。	協議内容を検討し会議で出た意見をサービスの向上に繋げる。欠席された方には議事録を送付する事で園の実情をしってもらい協力関係を築く。	12ヶ月
2	36	地域との協力体制が十分とはいえない。	地域との協力体制の構築。	連絡網などは作成しているが連絡訓練などは不十分であるためしっかりと連絡網の活用に努め地域との協力体制を築いていく。	12ヶ月
3	35	緊急時に備え日々の勉強や訓練は行っているが職員全員が実践力を身に付けるまでには至っていない。	全職員が緊急時に慌てることなく、応急手当等初期対応ができるようになる。	職員全員が応急手当や初期対応の実践力を身に付けるため定期的な訓練の継続。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。